

みらいをかたちづくる

2019年度卒業制作展優秀作品集

東北工業大学 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科

みらいをかたちづくる

よりよい未来とはどんなものだろう。
過去と現在を比較し、何が社会を豊かにし、何が社会をゆがめたのか。
クリエイティブデザイン学科では、社会における豊かなデザインとは何かを考え、
苦労や喜びを経験し、課題制作に向き合ってきました。
デザインはよりよい未来をかたちづくるものでありたい。
学生たちは悩みながらも社会と向き合い、そのこたえを模索しています。
卒業制作はその途中段階のプロトタイプのようなもの。
未来を生きていく彼らの思考は、
これからも様々な出会いによって進化していきます。
この作品集を手にとっていただいたみなさんと学生の作品との出会いもまた、
あたらしい未来の扉を開くきっかけになることでしょう。

クリエイティブデザイン学科は3つのコースに分かれています。

プロダクトデザインコース
家電製品/家具/自転車/バス・地下鉄などの交通システム/木工/金工など

ビジュアルデザインコース
エディトリアルデザイン/タイポグラフィ/装丁/パッケージ/広告/絵本/イラストレーション/コンピュータグラフィクス/染色/陶芸など

エクスペリエンスデザインコース
WEBコンテンツ表現/アイコン/HTMLコーディング/アプリケーション/スマートフォンアプリ/プログラミング/
ゲーム/映像インスタレーション/3DCG/プロジェクションマッピングなど

2020年度より、クリエイティブデザイン学科は産業デザイン学科へ名称が変わります。



初心者でも簡単に演奏できる楽器のデザイン

例えばギターであれば、左手で弦を押さえ、それに合わせて右手で弦をはじくように、既存の楽器の演奏には左右の手の連動が必要だ。その難しさを解消すべく、片手で左右両方の手の動きを行える弦楽器を制作した。楽器を演奏することが難しそうと考える人でも、この作品をきっかけに楽器に興味を持ってもらえれば嬉しい。

講評●「音楽に興味はあるが楽器演奏のハードルは高く感じる人」という、明確かつ現実味のあるターゲット設定と、それに向けての論理的なアプローチを評価した。実際に使用できる機能試作を行い、それを用いて楽器演奏経験のない人が短時間で簡単な楽曲を弾けるようになることを検証で示した点も研修として説得力がある。スタイリングにはさらなる洗練の余地があるが、魅力的なプロダクトに昇華する可能性を秘めた提案である。(指導教員:梅田弘樹)



三浦勇輝
プロダクトデザインコース
石巻工業高校出身



本物志向のユーザーへ向けたオーダー式家具店の提案

堅牢であり、万が一壊れた場合でも修理ができるという理由から、木と鉄は古くから家具の材料として重宝されてきた。古くから生活に馴染みのある材料を使用することを本研修では「本物」と定義し、時とともに変化する色、増えていく傷や錆など、木と鉄それぞれの素材感を大切に製作に取り組んだ。また、異なる二つの素材を同じ工房で加工できる環境を活かし、学んできた技術を十分に応用することもできた。

講評●木工と鉄工の共同作品である。木工でも鉄工でもない相互が融合した工法を模索する中で、二人の制作意識も一つに融合していった。最初は戸惑いもあったが、最後は堂々と自分たちのオリジナル家具をブランドとしてもまとめ上げたことは素晴らしい力量であると評価する。これから社会に出るにあたり大きな自信につながると思う。豊かな創造力をいつまでも失わず、それを世に実現する力もあわせ持つ素敵な社会人になることを期待する。(指導教員：坂手勇次)



荒木優花 仙台南高校出身
大沼源起 聖和学園高校出身
プロダクトデザインコース

クルマ好き世代に贈る高齢者用パーソナルモビリティの提案

将来自動運転が普及しても、車の運転を安全に楽しみたい。そんな思いを実現する、高齢者向けのモビリティ。腰に負担をかけずに乗降できるようアクセスは車両前部とし、可動シート&アシストグリップを配置した。CADを駆使してデザイン開発することで、道路上で邪魔にならない全幅1100mmのコンパクトパッケージングを実現した。最高速度は40km/hながらも、低い着座位置により運転の楽しさを満喫することができる。

講評●高齢者による交通事故が問題となっている今、老後の自立心・生きがいとクルマの関係のあるべき姿を考えた社会への提言と言える。流麗なスタイリングに目が行きがちだが、エルゴノミクスの配慮が細部にまで行き届き、美しさと機能性を高度に融合させて具体化することに成功している。詳細構造まで考慮された精度の高い作品はCAD開発ならではの、実寸パッケージングモデルでの人体検証をプロセスに組み込んだ点も評価した。(指導教員：大矢隆一)



二瓶一真
プロダクトデザインコース
仙台工業高校出身



キッチン及びダイニングを彩るテキスタイルを用いたアイテム制作

たくさんの人に料理に興味を持ってほしいと考え、男女ともに楽しめるキッチン用品を企画制作した。「おにぎり」と「雑穀」モチーフにテキスタイルデザインを行い、各3色のカラーバリエーションでエプロン、鍋つかみ、鍋敷き、ランチョンマット、コースター、スリッパの全6アイテム制作した。エプロンは胸当て部分を折りたたむとギャルソンエプロンのようになり、特にユニセックス性の高いアイテムに仕上げることができた。

講評●近くで見てもはじめて、おにぎりと雑穀が浮かび上がってくるパターン。学生みんなに伝え続けてきた「何度見ても楽しめるもの」を、見事テキスタイルデザインで実現した。何度も色合わせを繰り返し、単体としてはもちろん、少ないカラーバリエーションの中で「選べるデザイン」を実現し、シリーズとしても完成度が高い。縫製にはやや課題が残るが、製法が特殊なスリッパ以外すべて自分の手でやり遂げた点も素晴らしい。 (指導教員：盧慶美)



渋谷祐依
ビジュアルデザインコース
仙台向山高校出身

靴下屋のブランディング

大人になるにつれ、シンプルな服を選ぶようになってきたが、可愛いものを身につけたいという気持ちがなくなったわけではない。そんなニーズに応えることを目指し、プレゼント用途に特化した靴下のブランディングに取り組んだ。ブランド名は「Lily-socks shop-」とし、靴下自体はもちろん、パッケージや広告に加え、販売方法も工夫し、雰囲気や世界観に徹底的にこだわり制作した。

講評●客観性を保つために対象を丁寧に調査し、得られた結果をブランド設定に反映させている。世界観の提示に苦戦していたが、ユーザーの行動や体験に対して仮説を立て、プロトタイプを制作し検証することで解決策を見出していた。当初予定からユーザーの行動や体験をフォローするアイテムを追加で多く制作している。制作ダミーの精度に課題が残るものの、進めていく上で発生する問題に柔軟に対処し制作を進めたプロセスを評価した。(指導教員：古川哲哉)



葛西昌美
ビジュアルデザインコース
宮城県工業高校出身



「イヤコン」を活用したユーザーインターフェースの改善

パソコンで作業しているとき、目的のアイコンを選択したつもりでも違うアイコンが選択されている。そんな経験をしたことはないだろうか。視覚的な情報だけでなく、音も情報としてアイコンに付け加えることで、この問題を解消できるのではないかと考え、AdobeのPhotoshopとIllustratorの「イヤコン」を自身で決めたルールに沿って制作し、比較実験を行った。

講評●自身がよく使用するソフトウェアの誤操作に着目し、サウンドを用いてその操作を改善する研究を行った。サウンド研究の諸問題、特に印象に関する評価の難しさがあるが、丁寧に制作を続けてポイントとなる要素を見つけ、素晴らしい音を完成させた。ぜひ今後も、デザインと検証を重ねて、本当に使いやすさを提供できているかを考え続けてほしい。(指導教員:長崎智宏)



大谷莉緒
エクスペリエンスデザインコース
一関第二高校出身

心拍に着目したインスタレーションの制作

BPMや強さも違い、年齢や精神状態などさまざまな要因で変化をする。普段意識することもほとんどなく、意識をしたところでコントロールもできない。そんな心拍が、他人とズレたり同期したりする様子を体感できるインスタレーションを制作した。体験者の心拍と、それを表現するシンプルな円のグラフィックと音が、干渉し合いながら変化し続ける様子をおもしろがってほしい。

講評●国内で開催されたデジタルアートの展示を体験し、そのときの感動を忘れることなく熱心に研修に取り組んだ。普段は意識することのない心拍をテーマにして、どのような表現が適しているのか、たくさんの試行錯誤やテストを行い、ずっと触れていたい作品に仕上げた点を評価したい。さまざまなアイデアや技術を統合した研修の経験を、社会人になっても活かしてほしいと思う。(指導教員:長崎智宏)



田畑育実
エクスペリエンスデザインコース
多賀城高校出身



3DCGによる体験型映像の制作
鈴木綾香(聖ドミニコ学院高校出身)

学校を舞台に起こる夢のような非現実を、VR映像を通して体験できる作品。実際にありそうな夢のイメージを表現し、またそれらの夢が見ている人の心理状態とどのように関係しているのかを、夢占いを参考に映像内で解説している。作品を体験することが、夢を少し違った視点で捉えるきっかけになることを期待する。



リフレッシュをテーマにしたストップモーションアニメーションの制作
鈴木優希(仙台三桜高校出身)

ストレスに苦しむ人の心を少しでも和らげたいと考え、リフレッシュ方法を伝えるストップモーションアニメを制作した。ストレスを抱えて萎んでいるスポンジが、さまざまな方法でリフレッシュしながら膨らんでいくストーリー展開の20本の連続作品。気軽にテンポよく見られるよう、ループ感とリズム感を意識した。



性別を問わないハイヒールのフォーマルシューズのデザイン
山本由里愛(浦谷高校出身)

ビジネスシーンにおいて、女性のハイヒール着用は強制されるべきではなく、個人が履きたいものを履ける社会になるべきだと思うこのコンセプトを定めた。ハイヒールのメリットのみを必要とする人がストレスなく履くことができるよう、コーディネートと履き心地のバランスよい両立を目指しデザインした。



子供の手の能力を伸ばすデザイン
川満拓海(鈴鹿高校出身)

「遊びながら他の能力を伸ばすデザイン」というテーマで制作したおもちゃ。二つの口に貼ったベルク口面を繰り返し貼ったり剥がしたりして遊ぶことで、子供の握力が鍛えられることを目指した。幼稚園での検証では、剥がす感触や音が多くの子供たちの関心を引き、何度も遊んでもらうことができた。



夫婦でコミュニケーションを楽しむ自転車の提案
井手通己(東北学院高校出身)

貴重な休日をもっと充実させたい。そんな夫婦に向けた2人乗り自転車デザインした。2人乗りを合法的に行うため3輪構造を採用。バイクのタンデムから着想を得た「肩越しのコミュニケーション」が可能な乗員レイアウトとすることで、同じ景色や空気を共有しつつ楽しく移動できる「新しい自転車」に仕上げることができた。



オリジナル書体の制作
菊地健(上山明新館高校出身)

これまでの学びから、表現における書体の重要性を常々感じていた。ゴシック体に焦点を当てて制作した本書体は、縦画は力強く、ハライやハネは終筆まで太いことが最大の特徴。見出しから本文まで多様な用途に使用されることを想定し、太さは7段階の展開とした。



グラフィック変換のビジュアル制作 -浮世絵の現代翻訳-
佐々木恵太郎(宮城県工業高校出身)

最近よく目にする、百人一首などの現代翻訳の作品から着想を得て、浮世絵をグラフィック的に変換(翻訳)したビジュアルを制作した。レイヤごとに線の太さを分けることでビジュアルに奥行きを持たせ、ある一点から見ることで一つのビジュアルとして見えるようなギミックを持たせた。



季節を感じるテキスタイルデザインの表現-スカートを中心に
藤村円(盛岡大学附属高校出身)

季節の果物をモチーフにテキスタイルデザインを行い、2種のスカートを製作した。幾何学模様「マル」を用いることで、視覚的に表現できない食感や香り、味などを抽象的に描き出した。それを用い、模様によるシルエットや素材の違いを楽しめるよう、フレアスカートとタイトスカートを製作した。



ウレタン・樹脂素材を使用したドラッグストア商品の企画とデザイン開発
鈴木拓真(仙台南高校出身)

ボトルとパウチをネジで連結することで空気と液体の流動をスムーズにし、安定した詰め替えを可能にした機構(実用新案権「繰り返し使用可能な液体容器(実用新案登録第3220576号)」)を活かし、企業と連携して商品企画を進めた。このパッケージによりパウチの利用率が大幅に向上することは、CSV経営の実現にもつながっているはずだ。



パパの語り合いを観覧するワークショップのデザイン
高橋葵士(聖和学園高校出身) / 草刈和士(明成高校出身) / 中川陽樹(石巻工業高校出身)

子供はほしいが子育てに対して不安を感じる男性は、少ないという。子育てに対する前向きな情報を得ることで、その不安を軽減できるのではないかと考えた。「パパみるワークショップ」は、積極的に子育てをしているパパの語り合いを見聞きすることで、不安を感じている人が子育てに対して前向きな意識を持つ。そのきっかけを得るための場である。



アロマショップのブランディング
倉金奈菜(宮城県工業高校出身)

豊かな香りが魅力の精油。さまざまなシーンで使えることもあり年々需要が高まってきているが、数値が高いと思っている人も一定数いるように感じる。そんな人にも気軽に精油を楽しんでもらいたいと考え、アロマショップのブランディングに取り組んだ。「香る・彩る・シーン」をコンセプトとし、精油を生活の一部として楽しんでもらえるように朝・昼・夜の3シーンでの商品展開とした。



場に馴染む家庭向けスタッキングチェアのデザイン
五十嵐哲史(米沢東高校出身)

来客時のみ使うダイニングチェアの多くは、収納を意識してデザインされておらず、邪魔に感じることが多い。そこで、使わないときにもダイニングに馴染むスタッキングツールを制作した。収納する際、背面を表にしてスタッキングすることを想定し、棚など垂直方向にリズムがある周りの家具との調和も意識してデザインした。

教員

- プロダクトデザインコース
- 梅田弘樹 教授
- 大矢隆一 教授
- 坂手勇次 教授
- 永山雅大 助教

- ビジュアルデザインコース
- 篠原良太 教授
- 盧慶美 准教授
- 古川哲哉 准教授
- 阿部寛史 助教

- エクスペリエンスデザインコース
- 堀江政広 教授
- 両角清隆 教授
- 長崎智宏 准教授



音声支援によるメール送受信アプリケーションの開発
徳政花奈美(東北生活文化大学高校出身)

スマートフォン初心者・高齢者に向けたメール送受信アプリケーション「TAIWA(たいわ)」。シンプルでわかりやすいユーザーインターフェースはもちろん、「テキストの音声入力」「音声案内」という音声でのアプローチでターゲットユーザーを支援する。